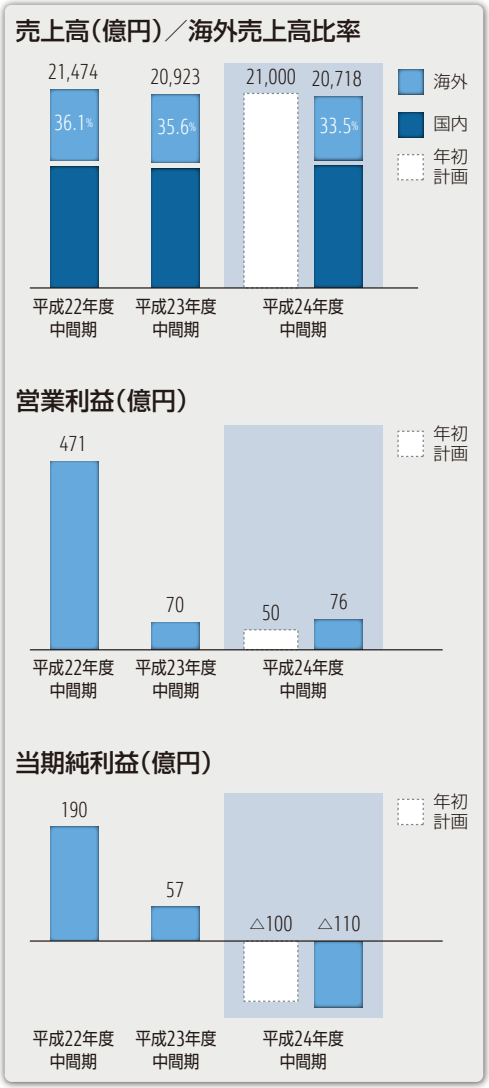
株主のみなさまへ



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。ここに第113期の中間報告書をお届けするにあたりまして、ご挨拶申しあげます。

当中間期（自　平成24年4月1日　至　平成24年9月30日）における当社グループを取り巻く事業環境は、先進国では、緊縮財政や高止まりする失業率を背景に景気回復が遅れ、また新興国では、輸出の減少などにより成長率が鈍化しています。海外のICT需要は、欧州を中心に投資抑制の影響を受けています。

一方、日本国内では、震災からの復興需要は継続しているものの、世界経済の減速の影響を受けて、景気の先行きに不透明感が残っています。しかし、国内のICT需要は、投資案件の再開や通信トラフィックの増加対策などにより堅調に推移しています。

このような事業環境のもと、当社グループは、テクノロジーをベースとした、グローバルに統合された企業になることを目指しております。そして、お客様のビジネスを支えるとともに、豊かな社会の実現に向け、ICTを通じて貢献することを経営課題としています。この課題解決に向けて、当社は、「既存ビジネスの強化」、「真のグローバル化の加速」、「新たなサービスビジネスの創造」という3つの成長テーマを掲げ、その実現に取り組んでまいりました。

既存ビジネスの強化においては、「営業フロントのグローバルな強化」、「富士通の宝であるSE（Systems Engineer）力の強化」、「富士通のDNAである技術力の強化」を実行しております。

また、真のグローバル化の加速として、データセンターを世界展開するほか、プログラムの開発拠点やコールセンターなどグローバルの

サービス共通基盤を整備しています。

さらに、新たなサービスビジネスの創造として、ビッグデータを活用したサービスや、農業や医療などの分野でクラウド技術を活用した新たなサービスを展開しています。

厳しい経営環境の中、これらの取り組みは成果を上げつつありますが、当中間期における当社グループの連結業績は、売上高 2 兆 718 億円、営業利益 76 億円、経常利益 29 億円、当期純利益は 110 億円の損失となりました。

当中間期の連結業績は、ほぼ年初計画どおりとなったことから、当中間期の配当金につきましては、年初計画どおり、1 株当たり 5 円とし、支払開始日を 11 月 22 日とさせていただきます。

当社グループは、中期的な業績水準の目標として、「連結営業利益率 5%超」、「連結売上高に対する海外売上高比率 40%超」「フリー・キャッシュ・フロー 1,500 億円超／年」を掲げております。

この業績水準を早期に達成すべく、引き続き 3 つの成長テーマ「既存ビジネスの強化」、「真のグローバル化の加速」、「新たなサービスビジネスの創造」の実行に取り組んでまいります。

今後とも、富士通グループはお客様のかけがえのないパートナーとして、ステークホルダーのみなさまとともに、さらなる成長を目指してまいります。

株主のみなさまにおかれましては、なにとぞ倍旧のご指導、ご支援を賜りますようお願い申しあげます。

平成 24 年 11 月

取締役会長　間塚道義

代表取締役社長　山本正已

取締役会長
間塚　道義

代表取締役社長
山本　正已